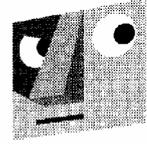


気になる!



「科学五輪」目指せ強豪国

北京五輪で熱く燃えたこの夏、世界の高校生たちは、もう一つの五輪、「国際科学五輪」でメダルを争った。

科学の頭脳を競うこの戦いで残念ながら日本は強豪国ではない。今後、互角に渡り合えるのだろうか。

「私でも解けない問題があるんです」。数学オリンピック財団理事長の小林一章・東京女子大教授は苦笑する。世界の精鋭が競うだけに難問ぞろいだ。

数学は計6問。1問の制限時間は90分で2日ばかりとなる。あるコンテスト参加者を友人関係をもとに2群に分ける方法について記述させる昨年の問題は、解答が用紙2ページにも及ぶ。

生物学の2006年の実験問題は、植物の組織標本を作り、顕微鏡で観察して分類、特徴を記述する。手の器用さも試される。

毎年開かれる科学五輪で数学、物理、化学、生物学、情報を主要5種目と呼ぶ。上位の一定枠にメダルが授与される。今夏は5種目に55〜97の国・地域が参加。

日本代表は延べ23人。21人がメダルに輝き、うち金は4個、銀8個だった。個人ではそこそこの活躍にみえるが、国別では日本は上位ではない。一方、中国、韓国は全種目で強い。

物理五輪日本委員長の北原和夫・国際基督教大教授は「粘りのなさが出た」と

言う。例えば今年の物理は「水で動く米つき機」の動作を解明する凝った難問だった。図表や方程式が並ぶ例年の問題から一変。「意表を突かれ、あきらめてしまったようだ」

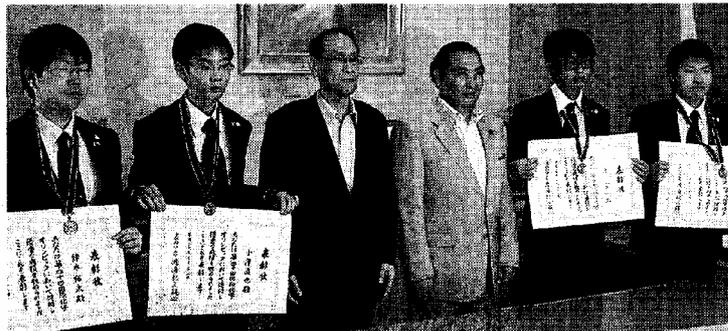
強豪国は、当たらずとも遠からずで、なんとか答えを絞り出し、点数を稼いだと、日本の関係者はみる。その粘り強さはどこからくるのか。簡単に言えば鼻先にニンジンをつぶら下げる

国際科学五輪の2008年の国・地域別順位

(文部科学省資料より)

	数学	物理	化学	生物学
1位	中国	中国	中国	韓国
2位	ロシア	台湾	ロシア	台湾
3位	アメリカ	韓国	ウクライナ	アメリカ
4位	韓国	インド	韓国	タイ
5位	イラン	アメリカ	タイ	シンガポール
日本の順位	11位	17位	33位	14位

情報五輪は個人成績非公開のため、順位は算出できない



作戦だ。文部科学省の調査では、中国や韓国、台湾は、代表選手に無条件で難関大学への推薦入学資格を与え、メダリストには奨学金を出す。日本にも似た制度はあるが浸透していない。予選参加人数も大違い。例えば化学では、中国や台湾、ロシアは数万〜20万人。日本は自由参加で約2000人だ。韓国は各高校から優秀な学生を選抜して代表を決めるといふ。

「科学技術立国」を国の大方針に掲げる日本。来年度の関連予算に文科省が6割増しの5億6000万円を計上する。予選参加者大幅増を目ざしてPR作戦を強化し、隠れた才能を発掘。事前合宿の回数、期間の拡大を検討する。

生物学五輪は来年、化学五輪は再来年に日本で開かれる。次世代を担う若者がどんな成績を残すのか気になる。

(安田幸一)